

大腸がん検診について

～ 年1回検診を受けましょう！ ～

現在、我が国の死亡原因の第1位はがんです。滋賀県においても、年間約5千人ががんにかかり、年間約3千人ががんで亡くなっており、死亡原因の第1位を占めています。しかし、医療技術の発展により一部のがんは早期発見・早期治療が可能になりました。“がん検診”はがんを早期に発見し、適切な治療を行えばがんによる死亡率を減少させることができる確実な方法です。

滋賀県における大腸がんによる死亡数は、全国と同様に部位別のがん死亡数の第3位です。この10年で大腸がんの死亡数は1.3倍に増えています。今回、滋賀県の大腸がん検診の状況について説明します。

大腸がん検診の対象は？

症状のない40歳以上の男女が対象です。

症状のある方は、それぞれの状態に応じた適切な検査や治療が必要ですので、検診ではなく必ず医療機関を受診しましょう。

大腸がん検診はどこで受けられるの？

居住地の市町や職場などで年1回受けられます。

実施時期や場所、費用負担などについては各実施主体により異なりますので、詳しくは各市町や職場にお問い合わせください。

どのような検査をするの？

がんやポリープなどの大腸疾患があると大腸内に出血することがあるため、その血液を検出する「便潜血検査」というスクリーニング検査を行います。

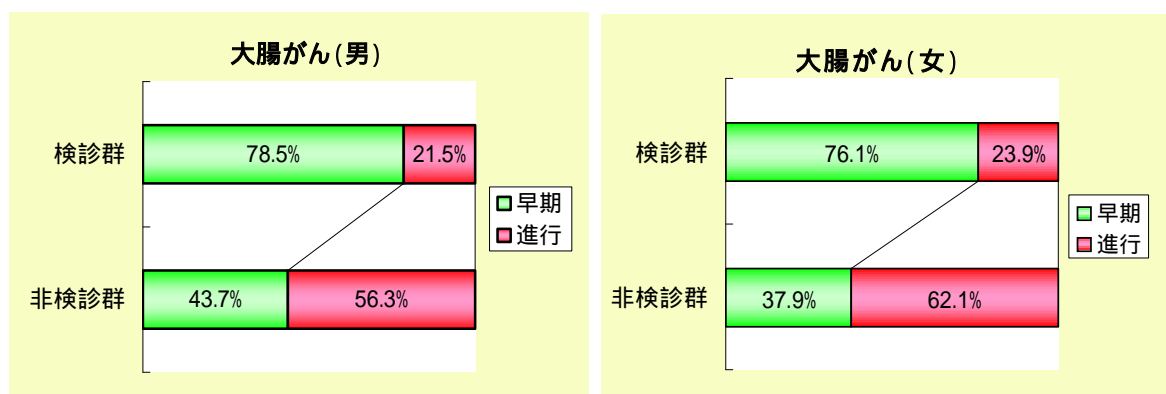
検査内容は、採便を2日行うだけの簡単なものです。

大腸がん検診を受けた人と症状があって外来受診をした人では、がんの進行度が違うの？

下の図は、男女別に検診群（大腸がん検診を受けた人）と非検診群（症状があって外来受診した人）にわけて、発見されたがんの進行度を比較したものです（滋賀県地域がん登録2000～2004年のデータより）。

男女ともに検診群から発見された人は早期のがんが多く、一方、非検診群から発見された人は進行のがんが多く発見されていることが下の図のように明らかです。

大腸がんは早期発見すれば予後がよく、ほぼ治癒が可能と言われています。検診群からの発見で早期のがんが多いということは、検診によって大腸がんによる死亡の減少が図れると考えられます。



40歳以上の方は年1回、必ず大腸がん検診を受けましょう